

令和元年6月11日現在

機関番号：33917

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K13303

研究課題名（和文）自己／他者表象としての新たな民族誌の開拓：代言人／「巫女」としての実践から

研究課題名（英文）To create a new ethnography as self and others representation: Writing about the role and influence of the researcher on the research field

研究代表者

吉田 早悠里（YOSHIDA, SAYURI）

南山大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：20726773

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、研究代表者がエチオピア・オロミア州ジンマ県ゲラ郡に位置する集落において、同集落に暮らすムスリム聖者と集落の住民らを取りつなく代言人／「巫女」として遇されているという背景を基盤とし、同集落における研究代表者の調査・研究と、代言人／「巫女」としての実践が、集落の人々の社会関係や実践に及ぼす影響について現地調査から明らかにした。そこから、他者表象としての民族誌において、文化人類学者が自身の姿をどのように描くのかという課題について実証的に検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、文化人類学の現地調査では、文化人類学者が現地で「透明人間」となって参与観察を行うことが推奨されてきた。しかし、実際には程度の差こそあれ、文化人類学者は現地の文脈に組み込まれてきたのみならず、開発人類学をはじめとした実践人類学においては、人類学者自身が現地社会に大きく働きかけてきた。こうしたなかで、本研究は民族誌において文化人類学者の姿をどのように描くのか、文化人類学者自身を客体化して分析、記述の対象とする新たな民族誌の開拓に取り組んだ点に独創性がある。そこから、フィールドワークとは何か、民族誌とは何か、文化人類学の営為そのものを根本的に再検討した点で学術的な意義を有している。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to create a new ethnography as self and others representation. This study is based on the background that the lead researcher of this project plays an important role in her field in southwestern Ethiopia. She participates in many activities and events that happen in the village, and it would be quite inappropriate to ignore her role and not mention herself when she writes the ethnography of the village. From this, this research clarified the role and influence of the researcher on the social relations and practices of the villagers and examined how to write the figure of a cultural anthropologist into an ethnography as a monograph of representation of the self and others.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学 民族誌 聖者信仰 イスラーム エチオピア アクター

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者がエチオピア・オロミア州ジンマ県ゲラ郡に位置する集落において、同集落に暮らすムスリム聖者と集落の住民らを取りつなぐ代言人／「巫女」として遇されているという背景を基盤としている。この集落において、研究代表者は集落で生起する出来事や活動に大きな影響力を持ったアクターである。そのため、研究代表者自身に言及することなしに、集落について語ることは妥当ではない。従来、文化人類学の現地調査では、文化人類学者が現地で「透明人間」となって参与観察を行うことが推奨されてきた。しかし、実際には程度の差こそあれ、文化人類学者は現地の文脈に組み込まれてきたのみならず、開発人類学をはじめとした実践人類学においては、人類学者自身が現地社会に大きく働きかけてきた。こうした状況のもと、文化人類学者自身の姿をどのように描くのかという課題が論じられ、オート・エスノグラフィが試みられてきた。本研究は、こうした背景を踏まえて、研究代表者／文化人類学者自身を客体化して分析し、記述することで、自己／他者表象を実現した新たな民族誌の開拓に挑むものである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、フィールドにおける研究代表者／文化人類学者自身を客体化して分析、記述の対象とし、自己／他者表象を実現した新たな民族誌を開拓することである。具体的には、エチオピア・オロミア州ジンマ県ゲラ郡に位置する集落において、研究代表者が強力な霊力を有するとされるムスリム聖者の語りを入々に伝える代言人であり、集落の住民や彼の崇敬者にとっては「巫女」であるという極めて特殊な状況において、研究代表者自身の代言人／「巫女」としての実践が、集落の人々の社会関係や実践にどのような影響を及ぼしているのか、顔の見えるミクロなレベルで実証的に検討し、民族誌として記述する。そこから、フィールドワークとは何か、民族誌とは何か、文化人類学者は誰に対して何を語っているのか、文化人類学の営為そのものを根本的に再検討する。

### 3. 研究の方法

本研究は、エチオピアにおける現地調査を主体し、国内での文献研究によって研究の視座と方法論、理論の形成を行うものである。また、現地調査では、以下の2点を柱として調査を実施する。

- (I) 集落の住民を対象とした悉皆調査を行い、集落の歴史的経緯、個々の住民の生活、住民間関係を通時的・共時的に明らかにする。
- (II) 集落における、(i) 研究代表者自身の位置づけと活動、(ii) 集落の住民の研究代表者に対する意識とその変化、(iii) 集落の住民と研究代表者の関係、明らかにする。

2016年度、2017年度、2018年度の3年間、計4回の現地調査を実施した。初年度にあたる2016年は、調査対象集落の全体像を解明するべく、集落の成立とその歴史、集落の住民構成、ムスリム聖者のライフヒストリーについて明らかにした。2年目にあたる2017年度は、前年度に調査を行った集落の住民に加えて、近隣集落に居住するムスリムとキリスト教徒、異なる民族的出自をもつ住民にも調査対象拡大して世帯調査を実施した。最終年度にあたる2018年度は、研究代表者に対する集落の住民たちの眼差しと対応、そしてそれらの経時的な変化について観察と聞き取り調査を行った。

### 4. 研究成果

本研究の成果として、以下が明らかになった。

調査対象の集落は、1940年代に現在のナイジェリア出身のティジャーニーヤ導師アルファキー・アフマド・ウマルによって拓かれた。数年後にアルファキーが同地を去ると、同地はアルファキーの実子とアルファキーを敬愛する人々が暮らす宗教的实践を重視した集落として形成維持されてきた。

アルファキーは、エチオピア各地で領主の娘と結婚し、10人以上の実子をもうけた。これらの実子のうち、アルファキーは晩年に得たアブドゥルカリームが自身を上回る霊力を備えていると繰り返し語っている。また、アブドゥルカリームの出生に関しても、アブドゥルカリームのもつ霊力を示すエピソードが語り継がれている。そのため、アブドゥルカリームは、アルファキーと同様に人々から聖者として受け入れられている。

アブドゥルカリームは、エチオピア西部で生まれ、幼くしてこの集落に呼び寄せられた。その後、アブドゥルカリームの母も呼び寄せられて、同腹の弟と妹が生まれた。この3人の実子は、アルファキーの命を受けた弟子によって人目にふれることなく養育された。

アルファキーが拓いたこの集落には、アルファキーの実子のほかに、アルファキーを敬愛する52世帯の人々が暮らした。居住者には、住居と農地のほか、時には衣類や食料も与えられた。同集落の土地は、あくまでアルファキーが人々に寄託した土地であり、私有化することは認められなかった。住民には、その土地での収穫物の納付や、集落での労働が課せられた。また、集落の住民には、独自の秩序、規則、規律の厳守が課せられたほか、集落の住民と外部者が集

落を出入りすることは制限された。

ところが1974年にデルグ政権になると、同集落は大きな変化に直面した。土地の国有化と再分配がはじまり、集落での労働義務や収穫物の納付の義務は失われた。とりわけ、集住化計画のもとで1987年に集落の土地が接収されて人々に分配されると、アブドゥルカリームらは自らの邸宅の外に出て、「普通の人」となって住民とともに働いた。

1991年にエチオピア人民革命民主戦線(EPRDF)が率いる政権になると、政治・宗教・経済の自由化が進められるようになり、プロテスタント諸派のキリスト教徒や急進派イスラーム復興主義者が訪れるようになった。また、同集落からの住民の流出や、新たな住民の流入が生じるなど、集落は新たな変化に直面することになった。他方で、アブドゥルカリームは自らの邸宅から出ることをやめ、人々との面会を断って隠遁生活を送るようになった。こうしたなかで、研究代表者は特別にアブドゥルカリームから接見を許され、アブドゥルカリームの言葉を住民や崇敬者に伝える代言人としての役割を担うようになった。

研究代表者の現地調査からは、アルファキーが残した予言のなかに「将来、アブドゥルカリームは外国人と共に働く」という予言があることが明らかになった。他方で、エチオピアの政権交代のもとで国内情勢が変化すると同時に、国際的にも外国人がエチオピアを訪れることが増え、外国人研究者による調査・研究も活発になった。こうした状況のもとで、同集落を訪れた研究代表者が集落で共有されていた「外国人」に関する予言と結びつけられ、重要なアクターとして位置づけられることになったといえる。

これらの研究成果については、論文、書籍、学会発表によって公開してきた。今後は、この研究成果を民族誌としてまとめる。また、調査対象集落でみられるムスリム聖者を中心とする宗教的実践を、エチオピア国内および国際的なイスラームの動きのなかに位置づけて理解し、本研究を現代におけるムスリム聖者信仰に関する研究として発展させる予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

Sayuri YOSHIDA, “The Government and a Women’s Association in a Muslim Holy Village in Southwest Ethiopia” *上智アジア学* (Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies), 査読有, 36, 2018, pp.149-163.

〔学会発表〕(計 3 件)

Takumi, SHIMURA., Sayuri, YOSHIDA., Katsuyuki, FUJII. & Yasuyuki, OKUMURA., “Development of micro hydro-power generation in rural Ethiopia”, The 15th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers, 2018年11月3日, 慶應義塾大学 矢上キャンパス(神奈川県・横浜市).

Shota, KUROKI., Sayuri, YOSHIDA., Katsuyuki, FUJII. & Yasuyuki, OKUMURA., “Prototype of a small wind-power generator for the rural areas in Ethiopia”, The 15th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers, 2018年11月3日, 慶應義塾大学 矢上キャンパス(神奈川県・横浜市).

吉田早悠里, 「無文字社会における歴史の再構築と外国人研究者の関与: エチオピア南西部カファ地方の事例から」, 中部人類学談話会 242 回例会, 2017年12月9日, 名古屋大学(愛知県・名古屋市).

〔図書〕(計 3 件)

吉田早悠里, 大阪公立大学出版会, 「住民参加型開発プロジェクトの行方」『国家支配と民衆の力』, 宮脇幸生編, 2018, pp.144-149.

Sayuri, YOSHIDA. Reimer, “From Social Differentiation to Discrimination: Changes in the relationship between the Kafa and the Manjo of southwestern Ethiopia”, *The State of Status Groups in Ethiopia: Minorities between Marginalization and Integration*, Epple, S.(ed.), 2018, pp. 193-217.

吉田早悠里, 明石書店, 「生活の向上」を目指す—ムスリム聖者村における女性組合の試み— 『現代エチオピアの女たち—社会変化とジェンダーをめぐる民族誌』, 石原美奈子編, 2017, pp. 261-288.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者  
研究分担者氏名：  
ローマ字氏名：  
所属研究機関名：  
部局名：  
職名：  
研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。